令和７年新春講演会並びに賀詞交歓会

総務委員会

令和７年１月24日（金）、仙台サンプラザにて一般社団法人東北地質調査業協会、一般社団法人斜面防災対策技術協会東北支部、一般社団法人全国さく井協会東北支部の３協会合同による恒例の新春講演会及び賀詞交歓会が開催されました。

新春講演会では、東北地質調査業協会の奥山清春理事長の挨拶の後、天鏡株式会社管理部部長の鈴木雅之氏をお迎えし「小さなまちから世界へ向かいます」と題して、ご講演を頂きました。

講演される鈴木雅之 氏

天鏡株式会社は福島県内でスーパーマーケットを展開する「株式会社リオン・ドールコーポレーション」が新事業として2018年に設立されました。

その親会社であるリオン・ドールコーポレーションは今から133年前の1892年に福島県喜多方市において「小池漆器店」として開業、その後３代目小池嘉吉氏が漆器卸売業から洋品雑貨店の「ライオン堂」を開業し、主に衣料品を販売していたそうです。しかし、カジュアルなユニクロなどの衣料品店が台頭した事により、1997年に代表取締役小池信介氏が衣料品業から完全撤退し、食料品中心の業態へ移行し順調に業績を上げ、現在では100店舗800億円を売り上げる大企業に成長した会社です。時代のニーズを読み、思い切った事業形態を変化させる事で成功を収めてきたリオン・ドールコーポレーションですが、小池信介氏の息子さんの小池駿介氏（以下小池さん）が中心となって立ち上げたのが「天鏡蒸留所（天鏡株式会社）」です。

小池さんは慶應義塾大学に入学。在学中イギリスに留学した際、スコッチウイスキーに魅せられたそうです。

帰国後、家業であるスーパーマーケット事業に取り組む傍ら、「故郷である会津エリアで何かできる事はないかな？」、「純粋にウイスキーの魅力を多くの方に伝えたいな。」という夢を描いていたそうです。

その２つの夢を叶える方法が、「会津から日本と世界をつなぐジャパニーズウイスキーを作る！」という考えでした。この熱い思いに対して、父の信介氏も共感し、設立に至りました。

「天鏡」と名付けた由来は猪苗代湖の別名「天鏡湖」より頂いたそうです。蒸留所の計画地も、「小さなまちから世界へ向かう」という思いから磐梯町を選んだとの事でした。

設立後、小池さんはウイスキーの本場であるスコットランドの製法を学ぶため、59箇所の蒸留所を巡り、トマーティンでは１ヶ月程度の研修を何度も重ねる努力家でもありました。

しかし、熱い思いを胸に創業者として精力的に活動していた小池さんに悲劇が起こります。2022年４月に起きた、皆さんの記憶にも新しい、知床沖遊覧船事故に巻き込まれてしまったのです。

28歳の若さでした。

小池さんが生前に出演されたイギリスのBBCラジオ番組「ワールド・ビジネス・レポート」の音源を会場で流して下さったのですが、本当に地元会津を愛し、そしてウイスキーも愛し、小さな町だけど懸け橋になりたいという思いが伝わった内容でした。また、放送を聞き終えた際、鈴木氏が小池さんを思い出されて涙声になられていました。この事からも小池さんは皆に愛されていたことも伝わりました。

小池さんが亡くなった後、この意志を継ぐべく、鈴木氏をはじめ事業立ち上げ

段階から携わった方々、スコットランドの技術者、専門家らが力を合わせウイスキー免許取得に至りました。

その過程の中で、大きな問題があったそうです。問題１として「蒸留する際の冷却水をどう確保すべきか」、問題２として「蒸留廃液（BOD）をどうやって排出基準値以下にするか」、この２点が問題でした。

ここで「専門家」として登場したのが東北地質調査業協会会員の「新協地水株式会社」技術者の山家氏でした。解決策として３案あがったそうです。第１案は「既存の井戸水を使用する方法」。これは水温15度未満の条件が達成できず不可。第２案は「川の水をろ過し使用する方法」。この案も費用が高額なため断念。３案として「湧水のオーバーフロー分を使用する方法」。この方法だと温度も15度以下でオーバーフローの量も1,000ℓ／分で条件を満たしている事になり、この方法で問題をクリアしたとの事でした。その後、町や地区行政と協議し水源活用の承諾を得たとの事でした。ここでも山家氏の分かり易い説明などがあり成功したと感謝されていました。同じ協会員として勝手に誇らしい気持ちになりました。（全く関係ないのに）

２つ目の問題は地元酪農家へ「乳牛の飲み水」として提供し、双方にメリットがある方法で解決されたとの事でした。またこの事が縁で循環型社会も生まれたそうです。

どういう事かというと、酪農で出た糞を堆肥として大麦生産者に提供し、そこで収穫された大麦をウイスキーの原料とする。そして栄養価の高い蒸留廃液を乳牛に飲ませるという流れだそうです。

小池さんが「故郷である会津エリアで何かできる事はないか？」と描いていた夢がありましたが、まさに現実になったと感じました。熱い思いとそれを受け継いだ人達の情熱が込められた「天鏡蒸留所」のウイスキーを、飲みたいではなく飲むべきだと思いました。また鈴木氏の小池さんへ尊敬の念や、まだまだ「一緒に仕事をしたかった」という無念さを時々涙をこらえている姿から感じられました。

皆が情熱を持って同じ方向へ向かっていけば夢は叶うのだと教えられた、素敵な講演でした。

引き続いて行われた賀詞交歓会では、開会に際し、東北地質調査業協会奥山清春理事長の挨拶の後、国土交通省東北地方整備局企画部長宮本健也様よりご挨拶をいただき、斜面防災対策技術協会東北支部奥山信吾支部長の乾杯の発声により宴席がスタートしました。

奥山理事長による挨拶

久々の再会に互いの近況を確認しあう姿や、地酒の差し入れが宴をさらに盛り上げました。更に講演頂いた鈴木氏も参加された事もあり、大変盛り上った賀詞交歓会となり、新年の門出を祝いました。

締め括りは、全国さく井協会東北支部の坂本興平支部長より、３協会員及びそのご家族の健康と健勝を祈念した手締めを行い、盛会のうちにお開きとなりました。

最後に、長年にわたり賀詞交歓会などで司会進行役として宴席を盛り上げて頂いた総務委員の羽生田氏が、３月で定年退職されるため、今回の会が最後の司会進行役となりました。この場をお借りして感謝の意を申し上げます。（４月以降は「フリー司会業者の羽生田氏」として、またお会いできる？かも（笑））

賛助会員の皆様